

父長徳と共に先軍となつて出陣し、後役にも亦従軍した。寛永七年五月廿四日三十一歳を以て歿。

**ヤマザキナガトクノウシヨ** 山崎長門軍功書 一册。巻初に山崎長門守家來侍帳と標出し、人別の書付に何某申上分として、各一生の軍功を載せたもの。末に以上人数三十八人、寛永八年五月晦日と記する。この長門は長徳である。

**ヤマザキナガノリ** 山崎長徳 初諱長鏡。通稱小七郎・庄兵衛・長門。越前の人。父は七郎左衛門吉延。長徳初め朝倉義景に仕へ、朝倉氏の亡後明智光秀に仕へて七百石を受け、光秀の戦歿後越前に歸り、佐久間安久に隸して旗奉行となり、柳瀬の役に陣した。この役後長徳は前田利長に仕へ、本祿千石と與力知三千石とを賜はり、又末森の役には武者奉行となり、翌年蓮沼・鳥越の戦に先鋒を勤めて、祿七千石を加へ、黄金若干・時服一を賜はつた。次いで放生津城の守將となり、又九州及び關東の討伐に従軍し、征韓の役には利家に従うて名護屋に赴いた。後近臣中村七助と争うて之を殺した爲に、一たび祿を失うて京都に屏居したが、秀吉は利長を慰藉して復仕せしめ、依つて舊祿を賜はることを得、慶長五年には大聖寺・淺井堰に戦ひ、功により四千石を加へられ、累計一萬五千石となつた。九年家を子阿波長郷に譲り、退老して閑齋と號し、致仕料別に二千石を食んだが、大坂兩役にまた出陣し、元和六年十一月歿した。享年六十九。

**ヤマザキナガマサ** 山崎長政 通稱初め彦右衛門、後半左衛門。幼にして母を喪ひ、長

門長徳の鞠育する所となり、長じて波着寺の徒弟となつて善識坊と號し、又高野に住した。人と爲り驍勇絶倫、寛永の初種髪して前田利常に仕へ、千石を賜はり、後富山奉行となり、次いで與力知三百七十石を受け、槍奉行に選り、寛文二年十二月廿四日金澤城内三ノ丸番所に於いて歿。年六十二。

**ヤマザキナガマサ** 山崎長應 一諱は長昌。通稱竹松・長門。光式の嫡男。父の歿後幼にして道知のうち五千石を受け、前田利常の隠棲に小松に従ひ、祿五百石及び與力知五百石を加へられた。後寛文二年病によつて屏居を命ぜられ、四年本祿中四千五百石を長子長治に、千石を次子由禮に分ち、五年九月四十二歳を以て歿した。

**ヤマザキナガヤス** 山崎長考 大聖寺藩士。通稱多宮・内記・圖書。憲月と號して畫を描いた。寛政元年八月廿七日七十二歳を以て歿。

**ヤマザキノフタカ** 山崎延隆 通稱半左衛門。實は淺香左馬の子で、山崎長政に養はれたもの。祿千石。寛文以後大小將番頭・所口町奉行・御小將頭・御馬廻頭に歴任し、元祿九年六月三日歿した。

**ヤマザキノリヒサ** 山崎範古 通稱直右衛門・庄兵衛。實は大聖寺藩 山崎圖書の養子であつたもの。文化三年加賀藩 山崎伊織長恒(長恒は大聖寺藩 山崎雅之丞の子で、範古の實兄であり、加賀藩 山崎庄兵衛長實の後を繼いだもの。)の遺知四千五百石を受け、定火消奏者番・公事場奉行・寺社奉行を經、文政六年十二月御家老に任じ、九年四月千石を加へ、同年六月遠慮を命ぜられて職を罷めたが、天保元年再び御家老となつた。慶應三年九月廿三

日歿。享年八十二。範古字を君修、號を神齋又は穆齋といひ、學を好み、藩政に就いては寺島鏡と持説を同じくした。

**ヤマザキハチマンジンジャ** 山崎八幡神社 能美郡出口に鎮座し、式内等舊社記に、『山崎八幡神社。出口村鎮座。于今稱『山崎八幡宮。』とある。邑傳に、慶長中山崎長門の建立する所といふ。今は單に入幡神社と稱する。

**ヤマザキヒコエモン** 山崎彦右衛門 天正十一年前田利家に仕へ、末森城後巻の際奮闘して、翌年千五百石を賜はり、遂に八千石に上つたが、慶長五年の後藩を去り、越後で歿したといふ。

**ヤマザキマサアリ** 山崎政有 通稱作右衛門。一諱は正重。朝倉義景の臣肥前吉健の子寶珠坊の子。慶長五年八月大聖寺攻撃の際首級を得た。政有の子は小右衛門長有である。

**ヤマザキミツノリ** 山崎光式 ↓ヤマザキナガツネ 山崎長常。

**ヤマザキムネトシ** 山崎宗俊 一諱は長政。祿千石。後に剃髮して種善坊と稱した。三疊記に、富田下總の伯父山崎修善坊は、前田利家に取立てられ、二百石を領して石川郡宮腰の代官であつた。利家密葬の時、野田山で最後の靈顔を拜せんとて、棺の蓋を押明けたに、臭氣鼻に入り、目をまはして發病し、終に失せたとある。こゝに修善坊とあるのは、當時の書狀に照らして種善坊の誤であり、その遠逝は慶長四年四月である。

**ヤマザキモリアキラ** 山崎盛明 通稱五郎右衛門・次郎兵衛。寶曆十年父次郎兵衛盛知の遺知四百七十石を受け、御馬廻から表小將に轉じ、天明二年八十石を加へ、四年物頭並に進んで金谷御廣式御用に轉じ、七年御免、寛政八年五月歿した。

**ヤマザキモリトモ** 山崎盛知 通稱衆之助。次郎兵衛。寶永六年父次郎兵衛の遺知四百石を襲ぎ、後七十石を加へ、寶曆十年五十三歳を以て歿した。

**ヤマザキヤマ** 山崎山 ↓モミヂヤマ 紅葉山。

**ヤマザキヨリタタ** 山崎籍侃 通稱彌次郎。小右衛門・頼母。一諱範侃。初め幼少で父作兵衛の俸三の一を受け、天明五年本知七百石に復し、御馬廻に班し、寛政元年大小將より次第に昇進して、天保二年百五十石を加へ、終に定番頭に至り、天保十二年八月廿八日隱居して常山と號し、料二百石を受けた。

**ヤマザキリヨウ** 山崎領 ↓ヤマザキジガタ 山崎地方。

**ヤマサル** 山去 珠洲郡南方の内の小字。

**ヤマシタ** 山下 珠洲郡飯塚の内の小字。

**ヤマシタカンベエ** 山下勘兵衛 慶長十一年の頃前田利常に召出され、十四年知行三百石を受けた。十五年利常の幕命によつて名古屋城構築の助役に赴いた時、勘兵衛は金澤から召され、徳川家康に仕へて二千石を領するその兄山下半兵衛に憑り、内證の使命を果し、功を以て三百石を加増せられ、後元和元年五月七日大坂の役に岡山口で戦死した。子孫は無い。

**ヤマシタキチベエ** 山下吉兵衛 父は野崎與右衛門。氏を改めて前田利長に仕へ、祿加増共に二百石に至り、承應元年歿。孫所大夫尙興に至り斷絶した。

**ヤマシタキヨオミ** 山下清臣 通稱徳左衛